

## 令和6年度第3回宗像市スポーツ推進審議会 議事録（要旨）

日 時	令和6年11月6日（水）17:55～19:45					
会 場	宗像市役所 201会議室					
出席者	委 員	■市丸	■大賀	■釜瀬	■河野	■末永
		■西村	■野口	■村山	□石松（欠席）	
	事務局	■大塚	■上田	■吉丸	■水田	
		■松水	■福本			

### 【開会】

大塚課長： 定刻となったので、令和6年度第3回宗像市スポーツ推進審議会を開会する。

この審議会は、宗像市スポーツ推進審議会条例第6条第2号の規定により、委員の半数以上の出席が成立条件となっている。本日は石松委員は欠席、河野委員は遅れて出席の予定である。現時点で委員総数9人のうち、7人の委員に出席いただいているため、本日の審議会が成立することを報告する。

議事に入る前に資料の確認をする。

（資料の確認）

これからの進行を市丸会長に願います。

#### 1 開会あいさつ

市丸会長あいさつ

#### 2 議事録（議事要旨）署名委員の指名について

市丸会長： 議事録署名委員の選出について、今回の議事録署名委員を2人願います。名簿順に指名する。前回は、末永委員と西村委員にお引き受けいただいたので、今回は、野口委員と村山委員にお引き受けいただきたいと思う。

（両委員が承認）

#### 3 協議事項

##### （1）スポーツ推進計画の策定について

・施策目標の追加について

市丸会長： 続いて、協議事項に移る。「（1）スポーツ推進計画の策定について」の「施策目標の追加について」事務局より説明をお願いします。

福本： 資料の 6-1 ページをご覧いただきたい。

ここに掲げている施策目標とは、今年度第 1 回目の審議会の中で「次の 5 年間で達成する目標」として審議いただいたものであり、それを本計画の施策目標として整理した。この施策目標について、第 1 回目の審議会で審議いただいた内容からひとつ項目を加えた。追加した項目は、基本方針 2 つ目の生きがいつくりの項目で、e スポーツに関する目標である。本計画ではスポーツの定義をスポーツ基本法のとおり競技スポーツだけでなく身体活動も含むとしている。文化スポーツ課ではこの身体活動に e スポーツも含まれると捉え、今回、e スポーツに関する目標を追加した。施策目標は「e スポーツあるいは e スポーツを活用したスポーツを始めるきっかけづくりについて研究されている」とし、具体的な目標値については、きっかけづくりについての研究が目標であるため、設定していない。説明は以上である。

市丸会長： 事務局の説明について、質問等はないか。

大賀委員： 「研究されている」よりも「研究している」とした方が良いのではないか。

上田係長： 目標については、5 年後の宗像市の状況を表すようにしている。そのため、研究することを「研究されている」状況という表現にしている。

末永委員： 文法の問題で、受け身と謙譲語のどちらの意味で使っているのかが気になる。

上田係長： 文章のあとには「状況」という言葉が隠れていると考えていただきたい。

大賀委員： 目標のため、「されている」という言い回しがふさわしいのか、引っかかるところがある。

末永委員： 「研究している」としても同じ意味で捉えることができると思う。

大塚課長： 他にも「されている」と表現している項目があり、言い回しがバラバラになっているため、統一する必要がある。市が主体的に行うという意味では「している」とした方が良いと思われるため、「している」に統一する。

大賀委員： e スポーツを活用したスポーツを始めるきっかけづくりとはどのようなケースがあるのか。

上田係長： まだわからないが、例えば e スポーツにはテニスや野球などの e スポーツもある。

仮にスポーツが嫌い、したことがないという人にも e スポーツをすることによって実際のスポーツに興味を持ってもらえるように繋げていければ理想的であると考えている。そのためには、まず研究が必要と考えこの目標としている。

末永委員： e スポーツを含まないスポーツは何というか。スポーツは e スポーツを含んでいるため、e スポーツを活用したスポーツという表現が引っかかる。

市丸会長： e スポーツからリアルスポーツに繋げることは難しいのではないかと。実際にはわからないが、普通はリアルスポーツをしたくないから e スポーツをするのだと思う。

上田係長： もうひとつの考えとして、「e スポーツ」の捉え方が難しいところではあるが、末永委員に教えていただいたように「e スポーツ」も身体を動かすことから、身体活動として捉えると、e スポーツ（スポーツ）をきっかけに身体を動かす健康づくりや生きがいづくりに繋がることも研究できるのではないかと考えている。

大賀委員： 国は、スポーツの中に e スポーツがあるとして広い捉え方をしているため、そこまで繋げて表現するのはどうかとを感じる部分はある。今から e スポーツの教室を開くなどの計画があるのであればいいと思う。ただ確かに、脈拍数によって調子の良さが変わるなどの関連性があるようである。

大塚課長： 身体活動を目的として e スポーツに取り組む人もいれば、e スポーツをきっかけにリアルなスポーツに取り組む人もいると考えられるため、どちらの側面もあるのかもしれない。そのようなところも含め研究していきたいと思う。

市丸会長： もう少し簡単に「e スポーツの普及に努める」などの言葉がいいのではないかとと思う。進藤先生によると、テレビゲームは末梢神経を使うため、ボケ防止に繋がるとのことであった。子どもがするから良くないものと捉えられるが、高齢者には良い影響を与えるもので、その頃のテレビゲームが今でいう e スポーツだと思う。そのようなことも含め、「活用」などもう少し大まかな言葉で表現した方がよいのではないかと考える。

上田係長： 文化スポーツ課で実際に事業などをやったことはなく、e スポーツに関する経験値はゼロの状態である。今後、e スポーツを健康づくりや生きがいづくりにどのような形で活用できるのかというところを試行錯誤しながら研究し、5 年後の次の計画では具体的な取り組み内容を掲げることができればと考えている。

市丸会長：そこはよく理解できた。言葉が難しいため、もう少し簡単な言葉がいいのではないかと思う。

村山委員：スポーツの中にeスポーツが含まれるのであれば、例えば「スポーツを始めるきっかけとしてeスポーツの普及について研究する」というようにするといいのではないか。

上田係長：参考にさせていただく。

市丸会長：eスポーツとは具体的にはテレビゲームと考えてよいか。

上田係長：個人だけでなく、チームや対戦相手がいって、何らかのコミュニケーションを取りながら行うものがeスポーツと定義されている。コンピューターを相手にしたり、ひとりでするのはeスポーツではない。

市丸会長：その他のところで質問等はないか。

末永委員：子どものスポーツの部分で、目標に中学生に関する目標があるが、中学生も子どもと捉えるか。

上田係長：18歳までを子どもと捉えている。

末永委員：そうであれば、中学生のところの目標は、中学生に限らず、小学生から高校生まで含めてもよいのではないか。

上田係長：こちらで把握できるデータソースが小学生、中学生までしかないため、具体的な数値目標としては、中学生までを目標値に掲載している。

末永委員：そうすると、幼児期から中学生までのすべての子どもとしてもよいのではないか。

村山委員：すべての中学生としている目標は、宗像市が今取り組んでいる部活動改革に関連した目標であると思われる。

上田係長：その通り。理想としては、幼児期から高校生まですべての子どもがスポーツに取り組めるとよいと考えているが、特に中学生については、学校部活動があるが、その中にはないスポーツに取り組みたいと思っている子どももいる。すべてのニーズに対応することはできないが、

関係機関と連携しながら、できる限り多くの種目に取り組める環境づくりに努めていきたいと考えている。

村山委員： 部活動地域移行の計画の中で、令和9年度の9月から学校部活動がなくなるという方針が決まっているため、そこを意識した目標となっているのではないかと思う。

大塚課長： その通り。

大賀委員： 「中学生を対象とした様々な教室の設置」の目標値が10種目となっているが、この10種目とはどのような意味か。また、「学校以外の場での教室の設置」の目標値には3種目とある。これらの違いは何か。

上田係長： 話を中断して申し訳ないが、次第に沿って話を進めた方がわかりやすいと思われるため、一旦は「施策方針の追加について」で区切らせていただき、次の「基本方針について」の審議に移らせていただきたい。

・基本方針について

市丸会長： では、「基本方針について」事務局より説明をお願いします。

福本： 資料は先程と同じく6-1ページをご覧ください。

この基本方針は、これまで課題の整理や目標を設定するうえで大きな枠組みとしてグループ分けをしていた6つの項目の部分である。これまでは簡単に健康づくりや生きがいづくりとしか整理していなかったが、計画として作り上げるにあたり基本方針として文言を整理したため、内容を確認いただきたい。

1つ目は、これまで「健康づくり」として整理してきた項目で、こちらを「スポーツで市民の心と身体健康づくり」とした。2つ目は、これまで「生きがいづくり」として整理してきた項目で、こちらを「誰もがスポーツを楽しむことのできる環境づくり」とした。3つ目は、これまで「子どものスポーツ」として整理してきた項目で、こちらを「子どもがスポーツを楽しめる機会の創出」とした。4つ目は、これまで「スポーツ環境の整備」として整理してきた項目で、こちらを「スポーツ活動を支える基盤体制の整備」とした。5つ目は、これまで「情報発信」として整理してきた項目で、こちらを「市広報紙を核とした「伝わる」効果的な情報の発信」とした。6つ目は、これまで「地域スポーツ資源の活用」として整理してきた項目で、こちらを「"おなかた"の地域資源を活用したスポーツ活動の推進」とした。説明は以上である。

市丸会長： 事務局の説明について、質問等はないか。

末永委員： ハード、ソフト、情報のような括りが一般的だと思う。そのように3つ程度にまとめた方が良いのではないかと思うがそのような検討はされたか。まとめることが難しいことはわかるが、3つ程度にまとまっていた方が頭に入ってきやすいと感じる。

市丸会長： ハードやソフトという言葉が入っていた方がよいということか。

末永委員： そこについては限定しない。スポーツ基本計画では、スポーツを活用して様々な取り組みを行っていくという部分の方針として、ハード、ソフト、人材の3つで括られている。

市丸会長： 人材もソフトに入るかと思うが、ソフトはどのような括りになっているのか。

末永委員： プログラムなどである。

市丸会長： 原案の6つを3つに括るとするとどのような分け方になるか。

末永委員： 6つでもよいが、ハードはハードとして並びが同じ括りになれば良いと感じた。

市丸会長： 基本理念から、6つに分かれるのは多すぎるのではないかということか。

末永委員： その通りである。

村山委員： 今の意見を反映するのであれば、1～3がソフト、4がハード、5と6が人材や地域資源というような3つの括りまとめられるのではないかと思う。

上田係長： ハードについては、スポーツ施設の在り方の方針決定を行えるように、現在、調査を実施している最中であるため、今回の計画では、スポーツ施設の整備に関して具体的な方向性は示していない。まだ機関決定もしていないが、来年度あたりにハード面についての方針を別途示していければと考えている。

本計画にある基盤体制の整備については、第2期計画を振り返り、スポーツ協会やエイコーウェル、南の郷クラブなどの関係機関と十分な連携ができていなかったという反省点がある。第3期では、関係機関がよりスポーツを推進していける体制になるよう、宗像市は責任を持ってサポート、基盤体制の構築にあたるべきだと考え、基盤体制の整備の目標を掲げている。

6つの分類については、健康づくりと生きがいづくりは別物として考えており、子どものスポーツについては、アンケート結果にあったように子どもからスポーツに取り組むことで大人になってもスポーツに取り組む可能性が高まるということや部活動のことがあるため1つの柱として

いる。情報発信については、第2期計画の反省として情報発信がほとんどできていなかったため、本計画では、大きな目標を掲げて情報発信の強化に取り組んでいく。そして、宗像市にある地域資源は引き続き活用していきたいというところで、この6つの方針は非常に重要と考え設定している。

市丸会長： 今後の流れとしては、この審議会で審議後、教育委員会へ答申し、議会へ諮られるのか。

上田係長： 答申の前にパブリック・コメントを挟む。また、教育委員会が最後となるため、議会へは諮られない。

市丸会長： 総合計画も同じ流れか。

上田係長： スポーツ推進計画は教育委員会が頭となるため、市長部局、教育委員会という順番になるが、総合計画は市長部局が頭になるため、教育委員会、市長部局という順番になる。

市丸会長： 全てのことが議会に諮られると思っていた。

上田係長： 議会には諮られないが、パブリック・コメントで議員から意見をいただくことはある。

市丸会長： よくわかった。施策方針については、事務局としては6つでいきたいということではよいか。

上田係長： その通り。

西村委員： 意見として聞いていただきたい。健康づくりと生きがいづくりは別と説明があったが、健康を社会的健康というところまで含めて考えると、ウェルビーイングという観点から健康づくりと生きがいづくりは共通するものであり、分けることに違和感がある。

上田係長： 本市の健康面においての一番の目標は癌で亡くなる人を減らすことである。そのために生活習慣の改善が大切と考え、保健指導にあたっている。この健康については、特に健康無関心層の方々に自分の身体の状態を知っていただき、自分の身体の状態にあった運動不足の解消や食生活の改善に取り組んでいただきたいところである。文化スポーツ課においては、健康無関心層では筋力の低下が起こり、何もしなければ介護状態になってしまう人がいると推測している。

その辺りへのアプローチをエイコーウェルと連携しながら行い、無関心層の発掘や健康づくりの大切さを伝え、積極的に身体活動、運動、スポーツに関わっていただきたいという考えがあることから、生きがいづくりとは別にしている。

末永委員： 癌の死亡率を減らしたいというところが健康づくりに繋がっているというように聞こえたが、健康づくりに気を遣っていても癌になることはある。過去には、健康に気を配っていても癌になってしまったら生活習慣が悪いと責められ、そのことが問題になったことがある。そのため表現する際には注意が必要であり、癌と健康づくりは切り離して考えた方がよいと感じた。

市丸会長： 死因の1位は癌か。

上田係長： その通り。

市丸会長： 今 YouTube 等では、死因の1位は各年代とも自殺だと言われている。個人的には癌になる原因は、ストレスだと考えている。人によっては運動やスポーツをストレスだと感じる人もいるため、スポーツが必ずしも癌に良いとは思っていない。恩師である田中宏明先生の考えによると、若い時はストレスがあまりかからないため発症しにくいですが、年を重ねるにつれてストレスが大きくなり、またそのストレスを抑えるための体力がなくなるため発症しやすくなるという。私もその考えを信じている。そのストレスの中に、例えば生活習慣の乱れやお酒、たばこがあり、スポーツもそのひとつだと考えている。そのため、運動が嫌いな人は無理に運動をしなくても良いと思う。また、お酒やたばこが好きな人にとっては、健康のために禁酒や禁煙をすることが逆にストレスになり体調を崩すことに繋がると考えられる。

末永委員： 20年前は、運動をすることで体内で活性酸素が発生し身体に悪影響を及ぼすという理由から、運動は毒だと言われていた。

市丸会長： 基本方針については6つでいきたいということであるが、よろしいか。

(委員異議なし)

・基本理念について

市丸会長： 続いて、「基本方針について」事務局より説明をお願いします。

福本： 資料は引き続き6-1ページをご覧ください。

これまで施策目標、基本方針と整理を行ってきた。これらの内容を踏まえ、今回、計画の頭と



なる基本理念を整理したため、内容を確認いただきたい。

本計画では、市民の誰もがいつまでもスポーツを楽しみ、そしてスポーツを通じて喜びを実感し続けることができることで、スポーツが市民にとって人生を豊かに彩る存在になってほしい、また、その環境を市民と宗像市と一緒に創りあげていきたいという思いを込めて、基本理念を『「スポーツ」と「市民」と「宗像市」と共に創る 笑顔輝くむなかたのまち』とした。説明は以上である。

市丸会長： 事務局の説明について、質問等はないか。

市丸会長： かっこは意識的に付けているという認識でよいか。なくても問題ないかと思う。

福本： 意識的に付けている。

市丸会長： その他に質問等はないか。ないようなので、次の項目に移る。

・第3期宗像市スポーツ推進計画（案）について

市丸会長： 続いて、「第3期宗像市スポーツ推進計画（案）について」事務局より説明をお願いする。

福本： 全体の説明の前に資料の修正をお願いしたい箇所が3か所あるため、その内容について口頭で説明させていただく。

1つ目は、資料7-1-4 ページの「施策目標④市民のニーズに合ったプログラムを提供している」の項目である。表の下にある説明文に「宗像市スポーツサポートセンターの実績（4種目）を参考に、4種目と設定します」とあるが、正しくは「3種目と設定します」であるため、修正をお願いする。2つ目は、7-1-11 ページ「施策目標⑤市内の民間スポーツ施設等のスポーツ資源を有効に活用している」の項目である。こちらの説明文の中の「目標値については」のあとに具体的な内容として「セカンドスクールやむなかたキッズセブン等の」という文言を加えていただき、「目標値については、セカンドスクールやむなかたキッズセブン等の活用可能なイベント等の数を参考に、年6回と設定します」に修正をお願いする。3つ目は、9-1 ページの審議会委員の名簿について、野口委員の区分が「市民公募」となっているが、正しくは「スポーツ関係団体を代表する者」である。お詫び申し上げ、修正をお願いする。

では、第3期宗像市スポーツ推進計画（案）全体の説明をさせていただく。資料は目次をご覧ください。

今回の計画の構成は、読みやすく活用しやすい計画を意識して、本編は簡潔にまとめ、詳細は全て資料編にまとめる形としている。これを前提に、目次に沿って全体の内容を説明する。まず

本編については、9つで構成されている。1が「計画の目的」、2の「スポーツとは」では、本計画におけるスポーツの定義を示している。3は「計画の位置づけ」となっており、関連計画との関係性を示している。4は「計画の期間」、5は「基本理念」、6が「施策の体系」となっている。7では「基本方針」を示し、8は「推進体制」として関係機関の役割を図にまとめている。そして最後が「進捗管理」となっている。続いて資料編の説明に移る。資料編については、全て本編に連動する構成となっており、例えば1-1、1-2については、本編の「1. 計画の目的」に附随する詳細となっている。内容については、1-1が「計画策定の趣旨」、1-2が「社会情勢の変化」、2については関連する資料がないため3に飛んで、3-1では「各計画の説明」として本編の3で示した関連計画の関連する内容について記載している。続いて4は飛んで、5-1は「第2期宗像市スポーツ推進計画の振り返り」となっており、5-2は「宗像市の現状」として以前整理した宗像市の様々なデータをまとめている。5-3は「運動やスポーツに関する市民アンケート調査結果」として今回の計画策定にあたって文化スポーツ課で実施した市民アンケートの結果を載せており、7-1は「基本方針について」となっている。8-1には、本編8に図で示した関係機関の役割の詳細を文章で示し、9-1は「審議会の概要」を載せている。

以上が全体の説明となる。なお、今説明したこれらの項目は、基本的には、これまでの審議会の中で個別に審議いただいたものである。

上田係長： 先ほど質問があった10種目の目標値（中学生対象の教室の設置）の件については、本編7に基本方針が載っており、その目標値の細かい説明については資料編7-1に載せている。10種目の項目については7-1-6ページに載せており、「中学生対象の教室の種目数については、現状、取り組みはありません。目標値については、現在取り組みを実施している部活動地域移行の事業において対象としている種目数（10種目）を参考に、10種目と設定します」と説明している。このように本編の基本方針に載せている目標値の説明を全て資料編で行っている。

市丸会長： 事務局の説明について質問等はないか。

末永委員： 本編7の基本方針の頭に載っている「★」と「◆」の記号の説明が難解であった。この書き方だと、本編を行ったり来たりしないとわからない。要は「★」はスポーツ協会で行って行くこと、「◆」は情報発信に関することであると思うため、それが頭の説明の中でわかるような表現に変えた方がよいと思う。

上田係長： ご指摘のとおり表現を改める。

市丸会長： その他に質問等はないか。

末永委員： 8-1ページの図について、前回の審議会でも意見したが、施設予約システムから公

共施設に伸びる矢印の長さがまだ短い。公共施設の上段の枠にかかるように矢印を伸ばしていただきたい。

福本： 前回の意見が反映できておらずお詫び申し上げます。ご指摘のとおり修正する。

末永委員： 5-2-5 ページの「(5) 情報発信」の「関連団体の認知度」について、ユリックスとアクアドームが別々になっているが、他のところでは、ユリックスが文化施設であるためアクアドームもスポーツ施設ではなく文化施設に含まれるなど、基本的にアクアドームはユリックスの中の施設として整理されている。ユリックスとアクアドームを別々に捉えるのか、一緒に捉えるのか、どちらかに統一していただきたい。その部分が私の理解と少し違っていると感じる。なぜこのような話をするかという、アクアドームに来るお客さんは「ユリックスに行く」と言う。また、「アクアドーム」はあくまでも愛称である。これらが回答ではどちらに含まれているかわからない。感覚的には、もう少し認知度は高いのではないかと感じる。

上田係長： 文化施設とスポーツ施設の棲み分けについては、現在、アセット計画が見直しの時期を迎えているため、修正をお願いしているところである。

末永委員： 修正できるものであるのか。

上田係長： 個人的には総合公園はスポーツ施設と認識している。

末永委員： ユリックスに関係する条例は、市民センター条例と公園条例の2つがある。市民センター条例の方が文化施設というイメージがあるが、スタジオがありスポーツができる。公園条例の方は、アクアドームやテニスコート、パットゴルフ場、トラックなどがある。

外から見ればユリックスはひとつのものとして見られているが、条例は2つに分かれており、建物は、本館とアクアドームとで別となっている。棲み分けが複雑になっているため、その辺りを整理していただければと思っている。可能であれば、アクアドームはスポーツ施設に入れていただきたいと考えている。

上田係長： アセットの計画では、アクアドームをスポーツ施設に入れてもらうように調整を進めているところである。

大賀委員： 8-1 ページについて、スポーツサポートセンターの位置づけについてはどのようにしているのか。宗像市に含まれているのか。

大塚課長： あえてスポーツサポートセンターという名称は出していないが、宗像市が今行っている取り組みがいわゆるスポーツサポートセンターの取り組みであり、図のアクアドームから伸びる矢印で示している健康づくりの取り組みを今後、エイコーウェルと一緒にやっていく予定である。

今、スポーツサポートセンターの在り方について、庁内で協議しているところでもある。ただ、スポーツサポートセンターで行っている取り組みは今後も重要であると捉えているため、ソフト事業は引き続き取り組んでいく。

大賀委員： 前回の計画では、「スポーツサポートセンターは」というようにスポーツサポートセンターの具体的な取り組みが載っていたため質問した。

大塚課長： あえて名称は出さないようにしているが、決して、スポーツサポートセンターで行っていた取り組みをやめるということではない。

末永委員： 「スポーツサポートセンター」とあると多くの方が物理的なものと勘違いし、実態がわからない、どこにあるのかわからないなどの声があがるが、実際は市民体育館の中に拠点があり、ハード面のことではない。そのため、あえて名称は出さないということかと思われる。

大賀委員： よくわかった。

それから、図の中に、「競技スポーツの体験の場」「運動の場」「スキルアップの場」という分類があるが、ここに急に「競技スポーツ」という言葉が出てくる。意図していることはわかるが、ここだけ「競技スポーツ」という言葉が出てくることに違和感がある。

末永委員： 全てなくした方がよい。

大賀委員： 私もなくても良いのではないかと思う。

末永委員： あると固定されてしまう気がする。

大塚課長： 各団体の役割をこの図の中で表そうとしており、スポーツ協会であれば、各单位協会への支援などの役割から「競技スポーツの体験の場」としている。アクアドームについては、健康づくりという視点から「運動の場」とし、グローバルアリーナについては経緯を把握できていないが、トップレベルの選手が来て合宿やスポーツ大会を行っているため、「スキルアップの場」にも繋がっているというところからこのような分類となっている。

上田係長： 「スキルアップの場」については、今、具体的に取り組まれている事例として、アクアドームで実施している幼児の水泳の体験教室を通して今後も水泳を続けていきたいと感じた子については、イトマンやはるかなどの民間の施設に繋いでいただいている実績がある。このような事例を鑑みたときに、公共施設としてはスポーツの体験や様々な取り組みを行い、続けたい、スキルアップをしたいという部分においては、民間のスポーツ施設へ可能な限り繋いでいくという連携の形が非常に素晴らしいと思われるため、その役割をここに示したところである。

大塚課長： 説明しないとわからない部分がある。

市丸会長： 私は何かしらあった方が良くと思う。限定されるのであれば、「主に」や「場の中心」などの言葉を付け加えると良いのではないかと。あるいは、数学で出てくるベン図を活用して表すなどの方法もあるかと思う。このままでは限定されるように見えるため、もう少しほかした表現に変えた方が良い。

村山委員： 会長がおっしゃるように、「主に」という言葉が付けば、限定するものではなく含まれるという捉え方になり、それだけの修正で済むのではないかと思う。

市丸会長： もう一度審議会があるということによいか。

上田係長： パブリック・コメント後に、パブリック・コメントの結果を含めた最終確認の審議会を行う。

市丸会長： これを修正する場合は、パブリック・コメントの前に行うということによいか。

上田係長： その通り。

市丸会長： では、この部分については、事務局の方で、限定されないような形の言葉に修正いただくということによいか。

言葉の長さの違いも気になる。スポーツは競争や競技を指すため、競技スポーツとはせず、競技かスポーツのどちらか一方だけでも良いと思う。「体験」とは、競技スポーツのさわりを体験するイメージで間違いはないか。そうであれば、「場」を付けなくても良いと思う。

上田係長： 「スポーツ」という言葉については、この計画における「スポーツ」は、身体活動までを含むと定義しているため、あえて「競技スポーツ」と表現して「スポーツ」と区別している。

市民体育館などの公共施設については、ウォーキングやストレッチのようなものではなく、ど

ちらかというバスケットやバレーなどのスポーツの種目を体験してもらい、体験した結果、さらにスキルアップを目指したいという人達がいる場合には、民間施設に繋いでいくという場の役割を担っているということからこのように表現している。

末永委員： この図は全体的に横書きになっているが、施設名だけ縦書きになっており気になる。

上田係長： 統一した方が良いとは思いますが、スペースの関係上難しい。

末永委員： 「宗像ユリックス・アクアドーム」の「・」の位置が一番下にきており、各施設の頭についている「・」との違いが分かりにくくなっていたため、縦書きが気になった。このままだとユリックスとアクアドームが併記されているようにも受け取れる。

上田係長： 「宗像ユリックス・アクアドーム」でひとつのものを指している。

市丸会長： ユリックスとアクアドームの間の「・」もしくは「宗像ユリックス」を取る方法が考えられる。正式名称は何か。

末永委員： 「宗像ユリックス総合公園屋内温水プール」である。

市丸会長： 正式名称を知らない人が多いと思われる。そうであれば、「アクアドーム」だけでも良いと思う。もしくは、「宗像ユリックス総合公園屋内温水プール（アクアドーム）」とするか。間の「・」は誤解を生む。

大塚課長： 間の「・」を取る方法で良いのではないか。

市丸会長： もしくは「宗像ユリックス（アクアドーム）」とするか。

上田係長： 間の「・」を取るだけではおかしいか。

市丸会長： おかしくないと思われる。

末永委員： 大丈夫である。

上田係長： では、そのように修正する。

市丸会長： その他に質問等ないか。ないようなので、次に移る。

#### 4 その他

市丸会長： 報告等はないか。なければ、事務局より次回の日程調整をお願いする。

上田係長： 今後の予定であるが、12月頃にパブリック・コメントを実施する。そこでいただいた意見等をもとに重大な修正が発生した場合は、早急に審議会を開催する。特段問題なく進みそうであれば、2月下旬頃に審議会を開催する。この場で2月下旬の審議会の日程調整をさせていただく。

(委員の日程を確認)

結果： 2月20日(木) 18:30～ 20 | 会議室

上田係長： 会長、副会長については、2月27日(木) 11時から教育長室で答申をお願いする。その後、3月の教育委員会で計画案の承認をいただき、4月から第3期の計画がスタートする予定である。

#### 10 閉会

市丸会長： 以上をもって、第3回宗像市スポーツ推進審議会を閉会する。

令和6年12月20日

署名 村山 正治

署名 野口 典子